



2014年(平成26年)
7月号(No. 830)

公益社団法人
日本山岳会
The Japanese Alpine Club

定価1部 150円

会員の会報購読料は年会費に含まれています

URL ● <http://www.jac.or.jp>
e-mail ● jac-room@jac.or.jp

平成26年度通常総会 会員増・リーダー育成に明るさも 会員6000人の安定規模目指す

今年度の総会では、若手会員や女性会員の比率が増えたこと、山の祝日法案が成立したことなどが報告された。また、年会費割引制度について提案があり、挙手多数をもって承認された。末尾に、事業報告・会計報告、事業計画・予算を掲載する。

平成26年度の通常総会が6月21日午後2時から東京・六番町の主婦会館プラザエフで開かれた。会員113人が出席し、①平成25年度事業報告案②平成25年度収支決算報告案③定款施行細則改正案について審議し、いずれも原案どおり可決承認した。森会長は「会員増強と次期リーダー育成が喫緊の課題と言ってきた。徐々に成果が出てきている。もうひと踏ん張り、

■森会長挨拶

この日の総会には3338人の委任状が提出された。出席者・委任状提出者を合わせると3451人と、会員総数5101人の過半数となり、総会は有効に成立した。

目次

平成26年度通常総会	
会員増・リーダー育成に明るさも	
会員6000人の安定規模めざす	1
平成25年度事業報告	4
東西南北	12
活動報告	14
科学委員会／山水会	
支部だより	16
越後支部／東海支部	
図書紹介	17
図書受入報告	19
Climbing & Medicine・63	20
会務報告	20
ルーム日誌	21
会員異動	22
INFORMATION	22
新入会員	23
編集後記	23

▶日本山岳会事務(含図書室)取扱時間
月・火・木……………10～20時
水・金……………13～20時
第2、第4土曜日……………閉室
第1、第3、第5土曜日……………10～18時
夏季休室……………8月9日～17日

高原三平総務担当常務理事の司会で議事を進めた。冒頭、森武昭会長は次のように挨拶した。

ホットニュースは、なんといつも「山の日」祝日法案が、先の国会で成立したことだろう。この夏、施行に先立って、当会が加入している全国「山の日」協議会が主催してイベントを実施する予定である。

喫緊の課題は、会員増強・次期リーダーの育成だと言ってきた。成果は徐々に上がってきた。ユースクラブを強化した結果、新入会員の20～25%が39歳以下の若い人になってきている。リーダー育成事業も自前のできるようになりつつある。

上高地山岳研究所で長年の懸案であった飲料水の確保に関して、地元の理解が得られて、この秋からの上水道工事に向け準備が進ん

でいる。その費用は長期計画準備金を充当することにした。

会員状況は、入会者が増加に転じた。退会・物故者も多く、全体としては横ばい。14～15年前の6000人規模に復活させたい。そうすれば、財政的に安定し、新しい施策を打ち出せるようになる。

■事業報告・収支決算

議案審議を開始した。高原常務理事が事業報告を、吉川正幸財務担当常務理事が収支決算を説明した。「事業報告」公益法人移行後2年目を迎え、活発な活動を進めることができた。YOUTH CLUBの拡充改組を行なって推進体制を見直した結果、雪山天気予報の充実、雪崩講習会、冬山登山指導事業などを実施することができた。



113人の会員が参加した総会会場の様子

「山の日」は8月11日を祝日とし平成28年から実施されることになった。海外登山については2隊に助成、大きな成果を挙げてきた。身体障害者支援登山は3支部で実施している。山岳研究調査事業は、上高地山岳研究所を利用した登山活動・小規模水力発電の研究などのほか福島第一原発事故の影響把握を目的とした山岳地域の放射線量の測定や、国土地理院と登山道に関する情報交換を行なった。全国自然保護集会は7月に立山山麓で行なわれた。

〔会員動向〕年度末会員数は、ピークの平成12年には5990人だった。それ以降10年以上にわたって、高齢化・会員減少が続いた。26年

3月現在は5056名である。70歳を超える会員は全体の53%に達する。また、12年には73人だった永年会員が326人と4・5倍に増加した。その他女性会員が増えている。新入会員の20%を超える状態が続いており、25年度には28%となった。〔収支決算〕事業規模が初めて1億円を超えた。経常収益は前年度比49.1万円増加して1億446万円となった。会費収入は、5277万円で239万円の減少。入会者は増加傾向にあるものの、退会者と永年会員、また会費滞納者が増加した。補助金・助成金、寄付金などの収入増加で会費収入の減少を補った。

事業費は1億731万円に達し、前年度比1666万円の増加となった。増加要因は、家族登山普及事業などの新規事業1011万円のほか、三國学生交流登山の支出が255万円、支部活動の活性化に伴う支部事業費331万円の増加など。管理費については、経費節減に努めた結果、414万円となり微増にとどめた。これらの結果、事業費と管理費の合計である経常費用は、1億1146万円となり、前年度比1703万円の増

加となった。

経常収益から経常費用を控除した損益(当期経常増減額)は699万円の赤字。前年度比1212万円悪化した。前年度は、寄付による広島支部のルーム取得など固定資産を購入した特殊要因があった。この特殊要因を除けば最終赤字(正味財産減少額)666万円は例年並み。依然として会費収入のみでは、新規事業を行なえない状況が続いている。

■挙手でもって承認

吉永英明監事から収支計算書等が正確かつ妥当であり、また理事の業務執行が誠実に行なわれたことを認める監査報告があった。質疑応答のあと賛否を求めた。公益社団法人となり承認は拍手でなく挙手で行なう。一斉に手が挙がった。

■年会費割引制度の導入

3号議案は、年会費に割引制度を導入する案。現在は4月から翌年3月まで、いつ入会しても12000円。この結果、月を追うにしたがって割高感が高まり、年が明けると入会者は極端に減少する。入会は4月に集中する。これを月

割りで計算し、例えば5月入会の場合、12分の1を減額することとする。質疑応答のあと賛否を求め、挙手多数でもって承認した。

■質疑応答

俵山守男(9742) 長期計画準備金(山研修繕費用)の積立は行なっていないとあるが、建て替えには浄財を集めるということか。

森会長 築21年になる。積み立てたいが、財源がない。建物の傷みはそうひどくないという診断は頂いている。

西村政晃(7468) プロジェクトチームとワーキンググループには、どんな違いがあるのか。

高原常務理事 会長が指示する特命事項を遂行する組織であってプロジェクトチームは方向づけを議論・検討するもの、ワーキンググループは方向が定まっていって実行を目的とするものとしている。

森会長 山の日制定、支部活性化、家族登山普及は、継続的に進めたい。通常の委員会にしたい。

神崎忠男(6002) 都岳連をどういう意図で退会したのか。日本体育協会などとの関係もなくなり、未組織登山団体という形にな

ってしまった。行政と離れて、どうやって公益社団法人の目的を達成していくのか。

森会長 退会した考えは会報「山」1月号を読んでほしい。日山協は行政の流れを組んでおり、日本山岳会はクラブイズム、個人会員を基盤としている。行政と関係なくはない。保険とか安全登山など日山協と随時話し合っている。

村井龍一(5091) 永年会員 会費免除の、会の財政に与える影響を十分に検討しているか。会員にもよく説明してほしい。

高原常務理事 永年会員は5056人の会員のうち326人。今後6年間で278人増える。上が大きくなり、下で支えていく状況となる。

森会長 会員増強・財政基盤検討プロジェクトチームで、対応策を検討してもらっている。

村井龍一 110周年記念事業に関し、ある支部が海外遠征の旅費を会に寄付したうえで補助してもらったことにした。いったん理事会で決定したが、取り消した。

吉永監事 監事としてガバナンスとコンプライアンスの観点から善処を要望した。110周年記念



森武昭会長

事業は実行委員会で検討しており、その手続きを取っていなかったこと、また今回の寄付行為が法的に問題ないか危惧する声がある。

森会長 本件に関しては、ご指摘の範囲も踏まえて、すでに適切な対応をした。

橋本清(6066) 公益社団法人に移行した際、理事を70歳定年とした。しかし70歳以上が53%を占める。高齢者の権利のあり方を考え直してはどうか。

山本良三(5768) 年会費に割引制度を導入しても、近視眼的な考えで入会する人はいない。4月に入会者が集中してもいい。役員の選出には、もう少し会員の声が反映されるやり方を考えるべきだ。

長田義則(5465) 年会費の割引制度に賛成だ。ただ毎月では細かすぎないか。4分割でいいのではないか。

有元利通(9703) 支部とし

て、この制度は有効だ。

宇田川允敏(4508) 年会費を割り引くなんて、みつともない話だ。4月に集中するのは、学校を出てすぐ入会するからだ。

尾上昇(6001) 若い人たちが増えてきている。さらに増やしたい。そうしなければ、会が消滅する。いろんなことを考えた結果だろう。入会しやすいようにする制度・仕組みをつくることを大前提とし、そのなかの試みのひとつと理解する。

■報告事項

平成26年度事業計画・収支予算 従来は事業計画・収支予算案についても総会で審議しなければならなかったが、新しい定款で「毎事業年度開始の日の前日までに、会長が作成し、理事会の承認を受けなければならぬ」とし「総会に報告を行う」と規定している。26年度計画・予算案は3月12日の理事会で承認されている。

「事業計画」公益目的事業として①登山振興②山岳研究調査③山岳環境保全事業を推進する。引き続きYOUTH CLUB事業に力を入れる。「山の日」制定プロジェクトは、他の山岳団体と協力して

新たな広報体制をとる。山岳研究調査として「上高地山岳研究所」の積極的活用に加え、東京の事務所内に開設している「山岳図書館」について会員外を含む利用者の拡大を図る。山岳環境保全事業は、「高尾の森づくり事業」をはじめとする全国11支部で実施されている森づくり事業を推進。会員を対象とした会員のための事業としては、年次晩餐会の開催、会報「山」の発行、山岳傷害保険の斡旋、会員向け登山指導など。

「収支予算」支部の活性化の効果による会費収入の増加と、寄付・助成金の増加が見込まれるので経常収支の均衡(プライマリーバランス)を保つ予算編成を行なった。創立110周年事業の準備費用として300万円を計上したが、特別会計の扱いとして最終損益で300万円の赤字として計上される。経常収益は総額1億842万円、前年度比1963万円の増加とした。会費収入5706万円、入金収入410万円、事業収益は1281万円、受取寄付金・助成金等として2072万円を見込んだ。事業費は、機関誌「山岳」、会員向けの会報「山」などの出版事業費

に1375万円、支部事業費に2347万円。若年会員増強のためYOUTH CLUB強化の予算300万円を計上。総額は、事業管理費1933万円と減価償却費を含み1億598万円とした。

■除籍対象者 26年度は69会員

平成26年度の除籍対象者は68人・1団体。会費を24・25年度の2年間滞納している会員が対象となる。新しい規約で総会の決議は必要がなくなったが、注意を喚起するため、総会出席者にリストを配布した。前年度の会費未納者には、機関誌『山岳』および会報『山』を送付しない。滞納2年目から3年目は、年次晩餐会、総会の通知会費納入督促を除くすべての通知を止める、3年間未納の者は除籍すると規定している。

■4支部で支部長交代

全国32支部のうち4支部で支部長が交代した。新しい支部長が紹介され、大きな拍手で迎えられた。新支部長は次のとおり。

信濃・塚原賢勝、秋田・今野昌雄、山梨・深沢健三、熊本・松本莞爾
(文・写真 高橋重之)

山岳地域の放射線量を測定や、国土地理院が整備する地図における登山道情報の正確性を維持・向上させるため、全国の主要な登山道に関する情報交換を行なう等、新たな活動も進めている。

Ⅲ山岳環境保全事業については、山地が国土の70%を占める我国において、そこを活動のフィールドとする本会にとっては、山岳地域の環境保護は課題の一つである。「高尾の森づくりの会」が高尾の森で小学生から大人までを対象にそれぞれ対象者の要望に応じた森づくり活動を進めているだけでなく、「三宅島」、「気仙沼大島」等での活動にも取り組んでいる。それとは別に全国11支部においても相互に連絡を取りつつ森づくりに取り組んでいる。

毎年行われている全国自然保護集会は7月6日～7日に立山山麓で行われ、地元を巻き込んだ意見交換を行うことが出来た。また、上高地においても一般観光客に対して山岳環境保全のPRや上高地内を案内し、自然観察を行うネイチャーガイドを実施した。

法人管理については、平成25年10月15日には個人が本会に寄付した場合の税額控除制度の適用に係る証明を内閣総理大臣から受けることが出来た。

これら寄付の増加に適切に対応するため受入体制の確立を図り合わせてマニュアル類の整備を進めた。その結果、寄付金についても多くの申し出があり付属明細書に記載のとおり総額で2,749万円の実績を得た。

<会員動向>

本会はここ10年以上にわたって、高齢化、会員減少が続いていたが、会員数は平成26年3月現在5056名であり、ここ3～4年間は、ほぼ横ばいとなっている。それまでは毎年100名程度減少していたが、現在は概ね幽止めが掛かりつつあり、25年度は218名の新入会員の入会があった。

別表

事業名	支部名 委員会名	事業内容
I-6 シンポジウム・講演会の開催	茨城	講師を外部または会員に依頼し、登山・山関連や海外登山などに関する講演を実施。4月、6月、9月、11月、1月の5回実施した。一般参加者は年間100名
	栃木	「山岳気象」に関する講演会を開催し、気象遭難抑止に向けての安全登山啓蒙活動を行った。12月に実施。一般参加者144名
	埼玉	「ハイキングレスキュー講習」、「秋冬の山岳気象」及び埼玉県山岳救助隊による実際の事例の講演を年3回実施した。
	東京多摩	山岳講演会を3回(9月、1月、2月)実施。260名参加(一般約100名)。
	越後	毎年7月25日に新潟県登山祭として高頭祭を実施している。本年は 支部参加者70名、一般参加者100名。日本山岳協会神崎会長の記念講演、その後弥彦山山頂で新潟県登山祭を実施した。支部会員による弥彦山清掃登山も実施。

第1号議案 平成25年度事業報告 要 旨

<概要>

平成25年度は、公益法人移行後2年目を迎え、新制度への移行も円滑に進捗し、民間公益活動の視点から活発な活動を進めることが出来た。

第一にコンプライアンスの徹底とガバナンスの確立に邁進するため、「公益法人運営委員会」を中心に、各種規程類の整備を進めるとともに、全国32支部とのコミュニケーションの円滑化のため支部長会議、支部事務局長会議の充実を図った。

さらに公益法人化に伴う会計処理の確実化、各種寄付の増加に対応するための必要なマニュアル類の整備に務めた。

I 登山振興事業については、若年層への総合的対策として、前年度にYOUTH CLUBの拡充改組を行ない、推進体制の見直しを行った結果、雪山天気予報の充実、雪崩講習会及び冬山登山指導事業の積極的な展開など従来にも増して活性化を図ることが出来た。

他の山岳団体と協同して進めている「山の日」制定プロジェクトについては、平成25年度は11月21日、国会議員、地方自治体の有志、企業・財界人、有識者、山岳団体などで構成する全国「山の日」制定協議会が発足し、本会は法人会員として加盟すると共に、多くの会員有志も個人会員として全国協議会に加盟した。

一方平成25年4月に発足した超党派の「山の日」制定議員連盟の総会にオブザーバーとして出席し、資料を提供するなどして祝日法改正の動きに寄与した。議連は8月11日を「山の日」とし、平成28年1月から実施する、などを内容とする議員立法議案を3月28日に衆議院に提出した。

海外登山については2隊に助成、それぞれの隊が大きな成果を挙げて来た。

一般登山者を対象とする登山教室については昨今の登山ブームの影響によると思われる希望者も多く、形態は継続的教室、短期的講習会など様々であるが現在15支部で行われている。

身体障害者支援登山も当初はごく一部の支部で始められたが、現在は視覚障害者(主として全盲者)、知的発達障害児及び自閉症者などが健常者と同じように登山を楽しむことを支援し、身体障害者の心身の健康維持に貢献することを目的としている事業で3支部において実施している。

25年度は新たに国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」の助成を得て「親子で楽しむ山登り」と題した親子登山教室のWebサイト(教材)掲載を開始した。

この企画は、支部の活性化と公益活動の向上も期待出来ることから、継続的に、各支部と連携し拡充を図っていく。

平成27年に本会は設立110周年を迎える。その準備のため110周年記念事業実行委員会を立ち上げ、「若手会員の育成及び会員の増強と各支部の活性化を図る」との命題を掲げ、そのための事業を企画した。

Ⅱ山岳研究調査事業については、上高地山岳研究所を利用した上高地における各種登山活動、小規模水力発電の研究などを行っており、上高地山岳研究所が活発な活動拠点として機能している。福島第一原子力発電所事故の影響把握を目的として、

事業名	支部名 委員会名	事業内容
	東京多摩	第2期初級登山教室（4月～6月）/受講生24名、 第1期初心者登山教室（4月～3月）/受講生25名。 第2期初心者登山教室（10月～3月）/受講生14名。
	越後	岩登講習会（6月）、自然保護集会（11月）、冬山講習会（2月）に講師派遣した。
	石川	ロープワーク・登攀ギア操作講習会を開催（6月に実施 一般参加者6名）。登攀ギアの操作方法やバックアップ等、危険回避についての講習
	静岡	「ハイキングセミナー」として実施。5月八高山、6月思親山、11月真富士山に於いて3回実施した。5.6月は初心者対象、11月は中級者対象で第1回は参加者22名、会員6名、第2回はそれぞれ12名、6名、第3回は15名、6名であった。
	東海	中日文化センター・NHK文化センター・朝日カルチャーセンターの3教室で年4期に分け通年開講し、いずれも座学と現地山行。
	京都滋賀	京丹後市教育委員会の後援を得て初心者向けの「安全登山講習会」を1月から3月に5回実施した。90名の一般の人々が参加した。
	関西	初心者・中級者・上級者各クラス毎に、共通の3回の座学と、クラス毎に9回の実技講習を行った。「安全な登山の普及」を目的に、山登りの初心者から雪山や岩登り等の本格的な登山を目指す方々を一般公募して実施した。
	広島	広島・呉・福山・岩国の4地区で毎月1回開催の「里山ハイキング」・「初級登山講座」・「中級登山講座」・「ユース登山講座（12月で廃止）」・「シニア自然学校（年8回）」の5講座11クラスに、支部会員から講師・アシスタント講師を派遣した（延べ276名）。受講生は、市民が延べ約1,400名が受講した。
	四国	「初心者向け登山教室」平成25年6月～平成26年3月までの毎月第四日曜日に実施。受講生延べ2月までの116名。3月の25年度登山教室終了に際して、節田重節副会長の記念講演を開催する予定。
	福岡	「パルフェスタin坊がつる」において、登山講座講師派遣と自然観察会等を担当。25年4月28日（土）～29日（日）、大分県九重山法華院温泉山荘にて開催。
	北九州	皿倉山及び福智山で安全登山の講習会を年6回実施（延べ83人参加）。又、平尾台で岩登り訓練を年2回実施した（延べ25人参加）。
	熊本	一般募集で集まった登山愛好家を含め、恒例の登山教室を実施、7名を1班とし、会員の班長・副班長でリード、初夏の韓国岳を登山。参加者会員26名、一般参加23名 計49名
	東九州	座学（1回の講座、1コマ1時間を2コマ）4回、実践講座（1泊2日の山行）2回、計6回の講座初心者を対象に募集、定員20名としたが、応募者多数で28名まで増やして実施。講師は全て会員が担当し、講座の資料等は全て講師の手作りで実施。
I-11 冬山登山 指導	遭難対策 委員会	「BC雪崩講習会」机上講習：12月2日（月）雪山医療、1月9日（木）雪上搬送法。実技講習：1月18日（土）～19日（日）関温泉において開催。12名受講
	山陰	1月18～19日、3月22～23日 1泊2日×2回 延日数4日の行程で鳥取県警八幡警察署習員2人/日と日本山岳会員3～4名/日は冬山の安全指導の為、冬山シロールを実施
I-12 身体障害者 支援登山	茨城	「茨城県 自閉症協会 協力登山」茨城県自閉症協会共催の自閉症者・年長者登山キャンプ活動に協力し支部会員指導での夏山登山活動をしている。
	埼玉	「障害者とのふれあい登山」25年4月14日に一般社団法人埼玉県障害者スポーツ協会と共同主催として第3回ふれあい登山を実施した。目的地は宮ノ倉山・石尊山で障害者28名、家族24名、山岳関係者26名スポーツ協会2名総勢80名で実施した。
	東海	「視覚障害者支援登山」視覚障害者を対象とし春は松尾寺山にて5月19日実施10名参加、サポーター18名。秋は11月3日伊吹山にて実施8名参加、サポーター23名。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
	富山	山岳講演会「槍ヶ岳開山 播隆上人のひと生涯」を平成25年6月1日、富山県民会館で実施、一般参加者80名。講師：黒野こうき氏（ネットワーク播隆代表）
	信濃	「岳都松本山岳フォーラム」松本市が主催し、11月16日17日に「山の楽しみを子供たちへ、そして未来へ」をテーマに開催され、各種展示会、講演会などが開催された。このイベントに事務局として参加した。
	岐阜	山岳講演会「槍ヶ岳を開山した念仏行者・播隆の生涯」（講師：ネットワーク播隆代表：黒野こうき氏）を開催した。一般参加者を含めて106名の聴講者であった。
	静岡	10月20日の全国支部懇談会の講演を一般公開とした。テーマは「富士山におけるスラッシュ雪崩と雪崩による大量山岳遭難事故」、富士山大量遭難、その報道と波紋」などで一般を含め190名参加。
	京都滋賀	京都新聞及び京都府、滋賀県山岳連盟の後援を得て「登山活動、登山文化」啓蒙のための講演会を4月に実施。一般を含め40名参加
	関西	「著者と語る会」本年は大阪府立図書館にて、須磨岡輯氏による講演会を実施した（年1回実施）。今年は11月16日で一般を含め44名参加
	四国	第一回小島鳥水祭に伴う講演会実施。演題は「小島鳥水と日本山岳会」「阿波志部氏と大嘗祭」
I-7 「山の日」	福島	8月、吾妻山一切経コースの清掃登山と山の日広報を実施 他山岳団体7名含む20名参加。
	東京多摩	高尾山「山の日の集い」6月第1週日曜日、高尾山ケーブル駅前広場にて開催。山の日制定協議会、東京多摩支部、都岳連、日本勤労者山岳連盟、高尾の森作りの会、共同開催。山の日制定の意義について訴求。
	山梨	第9回山の博覧会（富士山特集）を6月29日に甲府市・山梨学院メモリアルホールで開催した。一般参加者350名、会員30名。山梨県やまなし山の日実行委員会、山梨学院生涯学習センターが共催。6月の富士山の世界文化遺産登録を記念し、登山振興・山岳文化の啓発を行う。
	信濃	6月2日に上高地ウェストン碑前において「ウェストン祭」を実施した。山の美しさをたたえ 登山の安全を祈るためのイベント。
	東海	「山の日」制定に向け、山の恵みについて考えようをテーマに山岳関連総合イベント「第一回夏山フェスタ」を愛知県産業労働センターにて6月29～30日開催。主催の実行委員会に全面協力。4600名来場
	広島	「ひろしま「山の日」県民の集い」実行委員会の主要メンバーに、加わり、官民一体となってひろしま「山の日」県民の集いを実施してきた。第12回の25年度は、広島支部は6/1（土）「霧ヶ谷湿原 自然再生地帯」の保全活動を行ない、6/2（日）には、北広島会場（21名参加）と東広島会場（31名参加）で初心者向けの登山教室を行なった。
	福岡	「岳人のつどい」山の講演会。「世界の山々を歩いて」渡部秀樹氏講演を太宰府館で行なった。一般参加者約150名。
I-8 インターネット	東京多摩	支部ホームページの一般向け記事を充実。「多摩の自然と山」、「お役立ちリンク集」。
	京都滋賀	支部「ホームページ」による通年の安全登山の啓蒙、登山文化の継承活動。
I-9 登山教室 の実施	北海道	NHK文化教室主催の登山教室への講師派遣協力
	宮城	東北薬科大学ワンダーフォーゲル部の技術講習会に会員を派遣し指導した。（9月）。
	山形	第一回公募登山6月23日 朝日村の田安俣～湯殿山ホテル迄全長7km標高差400mブナ林の登山。一般参加者26名 第二回公募登山も前回の引き続き湯殿山ホテル～志津までの全長8km、標高差430m。一般参加者10月31日

事業名	支部名 委員会名	事業内容
	東京多摩	「雲取山石尾根の石積み登山道整備」5月15・16日。東京都レンジャーとの協働作業として雪解け後の登山道の石積み整備作業を行った。支部員12名、都レンジャー4名、奥多摩自然公園管理センター1名、サボレン4名、読売新聞社2名、計23名がボランティア参加。
	越後	5/26九才坂峠・日指岳清掃登山、7/25弥彦山清掃登山、3/23弥彦山雪割草バトルを実施。
	富山	「高頭山登山道整備」5月25日に実施。「播磨祭」記念登山に先立ち、支部会員が登山道整備を行った。
	石川	歴史ある往年の廃道を復活・整備し、地元集落や登山関係者に貢献（金沢市内1ルート、白山市内2ルート、加賀市内1ルート 計4ルートで、4月、6月、10月に各2回実施）。
	福井	6月2日荒島岳、6月23日経ヶ岳にて清掃登山を行った。
	信濃	ウェストン祭に合わせ事前に行政機関と共に徳本峠登山道の状況調査や整備を行った。
	関西	六甲東お多福山復元化活動に参加。大阪府や各市町村が制定している自然歩道を、各自治体と連携して、道標整備や登山道の補修を行った。年間4回実施。
	山陰	島根県の出雲地方と伯耆地方の山々の調査を行い、山陰支部創立70周年を目標に「雲伯の山々」（仮称）を発刊予定。
	広島	11/12（火）・13（水）10・16名が参加して、中央分水嶺（聖山別れ〜奥匹見峠分岐）の登山道整備した。
	四国	8月17日に奥かずら橋から丸石分岐までの登山道、旧高ノ瀬小屋跡のゴミ回収を行った。
	北九州	通常会員、支部友、一般を対象に4月7日（日）47人（その内通常会員、支部友、一般を対象に4月7日（日）47人（その内北九州支部35人）の参加により、ゴミ24袋を回収した。
	熊本	第13回・第14回森林保全巡視登山 4月27日（高岳）・11月16日（高岳）
	東九州	登山者の多い九重山系の登山ルートを毎年場所を変えての清掃登山実施（25年は本山道）
I-17 山岳自然 観察会の 実施	岩手	秋田駒ヶ岳自然観察会 9月7日（金）・8日（土）参加者10名（会員外2名）植生や虫、動物に関して学習。
	茨城	年2回、5月、9月に会員と一般参加者の地域の登山愛好者向けに地域山域内の自然観察会を行った。指導は森林インストラクター会員。
	東京多摩	地域の登山愛好者向けに地域山域内の自然観察会を行った（年3回実施、一般参加者70名、8月に御岳山レンゲシオウマ観察会、12月高尾山シモバシラ観察会、3月 国立四小高尾山自然観察ハイキング）実施を実施、支部会員はボランティアで指導者・補助員として参加）。
	石川	自然観察会を県内の歴史あるハイキングコースで実施（会員の自然観察委員により、コースの歴史的背景や、植物の植生、生息する動物、眺望出来る山並み等を解説。10月に実施、一般参加者6名）。
	福岡	自然観察登山「福万山と由布岳」～自然を守り育む野焼きの風景を訪ねて～ 26年3月8日（土）～9日（日）に開催。25名参加
	熊本	山野草を見る会 5月12日。阿蘇中央火口にある往生岳・杵島岳の登山を実施、目的のいゝわかがみの華を鑑賞しながらの楽しい1日であった。参加者15名
II-2 山岳図書 館の運営 事業	図書委員会	小田原文学館「辻村伊助展」への展示協力 2013年10月19日～12月15日。東京都写真美術館「黒部と槍一冠松次郎と徳苅三寿雄展」への展示協力
III-1 森づくり活 動	北海道	支笏湖復興の森づくり。
	青森	平成11年以来実施している「白神山地ブナ林再生事業」を津軽森林管理署と協力して実施（6月、9月に一般の協力を得て実施）。本年は一般参加者3名。
	福島	6、9月、吾妻山「姥平湿原」の植生復元作業を地元吾妻山自然倶楽部と共同で実施 参加6名。ヒメスギの種の採取、種蒔き等の作業に参加。

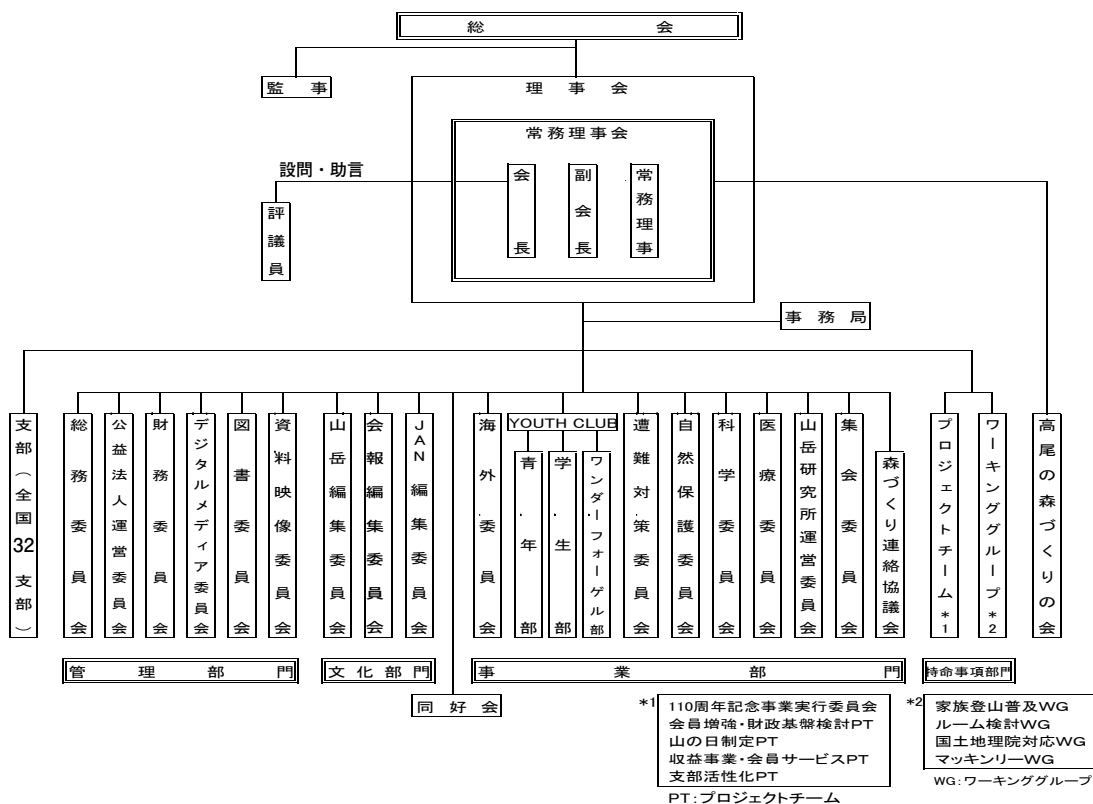
事業名	支部名 委員会名	事業内容
		「スペシャルオリンピックス愛知との登山」4月13・14日 鈴鹿朝明茶屋・水晶岳にて開催。障害児9名参加
I-14 海外交流 事業	海外委員会	新しい試みとして「第1回積雪期富士山 国際交流登山」を企画し、各国の山岳会に招待状を送り参加者を募集した。平成25年5月17日から19日にかけて実施。海外からの参加者は周知期間が短かったこともあり2名に留まったが 国際交流を目的とした富士山登山の実施。次回開催に向けていくつかの留意点を把握することが出来た。
	東海	日中韓学生交流登山隊の派遣。 8月16～21日（富士山他）
	栃木	「親子登山教室」を夏休みに実施、16名参加。大自然に触れながら、親子の絆を深め、他人と協働しながら人格育成の一助とした。
	群馬	群馬県山岳連盟主催「チャレンジキッズプロジェクト」に協力。平成25年9月7日（土）。谷川岳―ノ倉沢の沢登り体験。小中学生受講生15名。役員、医療スタッフを派遣。
	I-15 幼稚園児 から中学生 までの体 験登山	千葉 児童養護施設「晴香園」（千葉県松戸市）の課外活動（登山）の指導及び協力。①筑波山（6月30日）②金時山（9月22日）③高水三山（11月17日）④鋸山（3月23日予定） 京都滋賀 滋賀県大津市立藤尾小学校の登山等の校外活動に指導・安全管理者を派遣して協力。 関西 6月2日の「山の日」に、一般の方を対象に子供・孫を連れた「わんぱく登山教室」を開催した。13名参加。 四国 徳島県ボーイスカウト連盟と協力し、支部会員が管理する菅生ロッジにおいてキャンプを行った。翌日、剣山登山をした。会員12名、会員外28名。9月14～15日実施。 北九州 「さいわい幼稚園」児童の風師山遠足登山をサポートした。 熊本 前年より開始した青少年のための登山教室継続実施。13名参加。参加者の中から会友になり山岳会に興味を見せてくれたものがいた。 東九州 「第12回青少年体験登山大会」初心者を対象に山登りの楽しさ、面白さを体験してもらい、登山の普及につなげていくことを目的に、青少年だけでなく、一般の初心者も対象に募集し、一日帰り登山を久住山で実施した。国際山岳年（2002年）以来実施してきており、今年で12回目。（参加者・76名） 宮崎 「こども登山教室」毎年夏休み期間中に実施、本年は小学生～高校生22人を支部会員20人が指導して、大分県タデ原（たでわら）湿原植物観察、久住山九州自然歩道観察を行い、自然体験活動を通じ、自然との共存共栄を図り、自然愛護の心、団結・協調性、忍耐力などの育成に努めた。8月3～4日実施。 青森 「八甲田山遭難防止対策スキーコース」を立て2月と3月に実施 一般参加者80名
I-16 登山道整 備	岩手	田代山清掃登山 5月18日（土）参加者8名、安比岳清掃登山 9月14日（土）参加者6名。裏岩手連峰開山祭 6月16日（日）支部会員5名参加
	秋田	「太平山山開き清掃登山」6月9日実施 一般参加者約115名。「太平山歩道整備」11月9日、歩道の刈り払い、ベンチ等の設置を行った。
	福島	吾妻山の廃道に近い中天狗コースを3年計画で整備開始、ルート探索と下刈機等を駆使してクマザサを切り倒し、道標、赤布の取り付けにより復活させた。年3回、6月から9月にかけて実施。
	栃木	「日光山系清掃登山」を実施。
	埼玉	12月14日・15日秩父琴平丘陵・東荷鉾山の清掃登山と講演会の実施。
	千葉	「房総半島分水嶺踏査」平成21年より継続して房総半島の分水嶺を踏査、本年度で終了したので、報告書を26年度に作成予定。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
	岩手	三石山パトロール 6月8日、7月20日、8月10日、9月27日 4回計15人参加、早池峰の貴重な高山植物の保護を中心とした山岳環境保全に努めた。
	東海	猿投の森の生物調査(赤外線定点カメラ設置)
	京都滋賀	支部自然保護部会を中心に京都の希少植生の調査と保護活動を継続的に行った。
		滋賀県比良山系及び比良山スキー場跡地の植生再生についての活動を継続的に行った。
	広島	NPO法人西中国山地自然史研究会との合同事業として、戦後牧場として開拓された原野を、本来の湿原に再生し、鷹などの猛禽類や野生植物の再生を試みた。広島支部からは、4/21(土)20名(合計52名)、6/1(土)28名(合計52名)が参加して、「霧ヶ谷湿原 自然 再生地」(下流部2.5ha・上流部1ha)の保全活動を行った。
	北九州	森林保全巡視を実施した。巡視員27人がそれぞれの山城に入り、ゴミ不法投棄の監視を始めとする活動を行った。
	熊本	第13回・第14回森林保全巡視登山 4月27日(高岳)・11月16日(高岳)
	科学委員会	探索山行 6月22-23日に「霧ヶ峰に黒曜石の産地と歴史を訪ねる」として実施。一般参加者は約30名。明治大学黒曜石センター、黒曜石遺跡、史跡和田峠を訪ね、黒曜石とはどのような物か等、自然と歴史を学習。
他1-1登山活動指導	北海道	「雪崩事故防止講習会」12月13日(金)札幌・中島公園 講師3名 受講者8名「函館地区講習会」1月23日(金)～24日(土)森町・駒ヶ岳周辺 講師3名 受講者14名「札幌地区講習会」2月1日(土)～2日(日)札幌・りんゆうホール 藻岩山スキー場 講師8名 受講者20名

事業名	支部名 委員会名	事業内容
	福井	越前町旧生中中学校隣接山林における森づくりを継続的実施。散策路整備のため、伐採と植樹を継続的に実施。
	岐阜	岐阜県林政部治山課との協働による「権現の森づくり」を実施、25年度作業回数は10回(4月～6月、9月～12月)で、下刈り、育苗、林床の手入れ。参加者は延べ93名。
	東海	「猿投の森づくり活動」猿投の森と東大演習林における森づくりと市民の森林体験のための整備、森の幼稚園(11月9日)、森の音楽祭(10月26日)。
	関西	「本山寺山森林づくり」に関して平成24年5月18日近畿中国森林管理局長と「社会貢献の森における森林整備等の活動」に関する協定書を締結した。高槻市の「社会貢献の森」にて、関西支部の会員及び一般公募の会員により、毎月1回森林整備、自然環境の保全を行った。25年度は 作業12回・植生調査2回・観察会1回実施、委員会・理事会各1回開催、4/12総会開催 会員・一般会員合計36名
	宮崎	「水源の森づくり」田野の森(宮崎市)、ロキシーヒル(西都市)、野尻の森(小林市) 総面積1.1ヘクタールに広葉樹 2000本を植樹して、毎年3回(7、9、3月)下草払い、枝打ち、補植等の作業を行い、森林の育林・保護活動を実施。そのほか「水源の森づくりをすすめる市民の会」の団体会員としても活動している。25年度は延べ30人として作業。
Ⅲ-2 山岳環境保全活動	北海道	「高山植物盗掘防止事業」を実施、実施期間6月1日～10月10日、大雪山系・十勝連峰、監視活動 延べ158回 実人数32名、研修会 5月23日 講師1名 参加者32名。
	宮城	宮城県が主催する世界谷地湿原保全対策事業に会員を派遣し協力した。(8月)

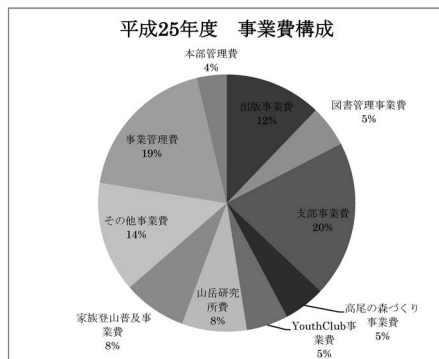
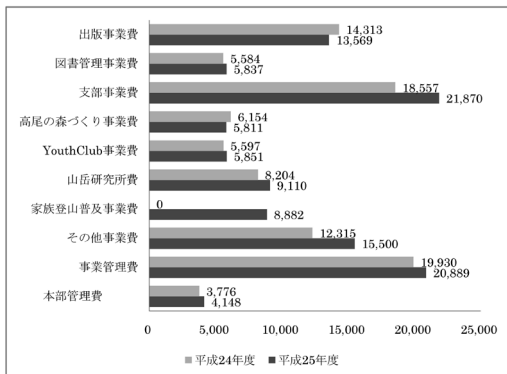
公益社団法人 日本山岳会組織図

平成26年3月31日現在



事業費については、107,318千円に達し、前年度比16,664千円の増加となった。この要因は、家族登山普及事業などの新規事業10,111千円が増加したこと、3国学生交流登山の支出が2,551千円、及び支部活動が活性化したことに伴う支部事業費の3,313千円の増加などである。既存の事業は、予算管理を徹底した結果、大きな増加はなかったものの、本部設備や上高地山岳研究所の老朽化による維持費用の増加は避け難いものであった。

管理費については、経費節減に努めた結果、4,147千円となり微増にとどめた。以上の結果として事業費と管理費の合計である経常費用は、111,466千円となり、前年度比17,036千円の増加となった。



経常収益から経常費用を控除した損益（当期経常増減額）は、6,999千円の赤字となり、前年度比12,123千円悪化する結果となった。前事業年度は、寄付により固定資産を購入した特殊要因があって黒字化したものであるもので、特殊要因を除けば最終赤字（正味財産減少額）6,662千円に関しては、例年並みで会費収入のみでは、新規事業を行えない状況が続いている。ちなみに、平成25年度当初予算の6,965千円の赤字とほぼ同額であった。

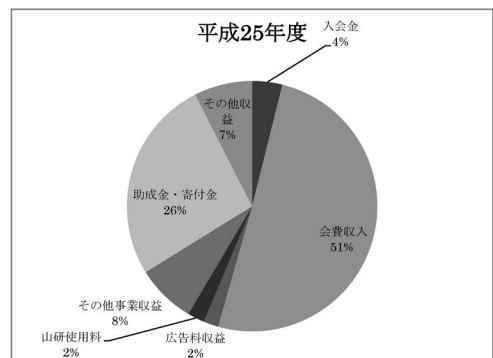
以上の結果、平成26年3月末現在の日本山岳会の貸借対照表は、現金預金は32,577千円となり、前年度比8,789千円減少し、固定資産も主に減価償却によって4,907千円減少したが、負債も5,939千円減少した結果、正味財産額は、313,293千円となった。当年度においては、運営資金を確保するため、長期計画準備金（上高地山岳研究所の修繕費用）の積み増しは行っていない。

事業名	支部名 委員会名	事業内容
	北海道	「帯広・北網地区講習会」2月15日(土)～16日(日) 芽室町・新嵐山スキー場 講師3名 受講者9名
	青森	「山岳スキー研修」毎年1月に鱈ヶ沢で山岳スキー研修
	東京多摩	「会員向け登山基礎講座及び安全登山講習会」会員の安全登山知識、モラル向上、及び登山技術の向上を目的として講座3回、講習会3回を実施。リーダーシップとメンバースhip・山の気象・地図読み・山の医療とトレーニング・ロープワークとセルフレスキュー・テーピング・読図登山と観天望気について実施。延べ163名参加。
	東海	森林力養成講座、沢登り研修会、写真山行、森の勉強会、アイスクライミング研修会等を実施
	宮崎	登山研究会を毎月開催。情報交換、登山技術研修会を実施。
	集会委員会	会員のため登山を実施（国内は5月、6月、9月、10月、12月、1月に実施、海外は10月、1月に実施）。
他1-2	図書委員会	図書交換会の開催（12月7日）。シュラギントワート・アトラスの展示 12月7日
他1-3	総務委員会 年次晩餐会、支部懇談会	年次晩餐会の開催（12月7日 品川プリンスホテル 468名）。 静岡支部「全国支部懇談会」の開催（10月20日～21日 静岡駅前ホテルアソシア 190名）。
	北海道	支部50周年記念事業
	関西	支部設立80周年（平成27年）に向けた活動の開始。支部ルールの移転。・記念山行の開始・記念式典会場の選定。・記念誌の発行準備。等
他1-6	会報編集	会報「山」のNo815～No826を発行した。

第2号議案 平成25年度決算報告(案) 決算概要

日本山岳会は公益社団法人となって2年を経過して、本部及び各支部において、公益団体からの助成金によって、家族登山普及事業（親子で楽しむ山登りwebサイト構築）や、高尾の森づくりの会に代表される全国の森作り活動、さらには、寄付金などによる支部行事や登山教室などの新規事業が急速に拡大した。新しい事業活動とYouth Club事業などの拡充によって、当会の事業規模は初めて1億円を超え、慢性的な赤字体質に苦しみ中で明るい展望が開けてきた年度であった。

平成25年度において当会の経常収益は、対前年度比で4,913千円増加して、104,467千円となった。しかし、受取会費は、入会者は増加傾向にあるものの、退会者と永年会員の増加、会費滞納者の増加などにより2,393千円減少し52,773千円となった。一方において、補助金・助成金、寄付金などの収入は、4,970千円増加した結果、27,496千円に達して会費収入の減少を補った。また、雑収益7,795千円の主な内容は、支部における登山教室などの収入であるが、2,394千円の増加となって支部の活動を支える原資となっている。



科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
基本財産受取利息	4,760	4,565	195
特定資産運用益			
特定資産受取利息	27,417	27,461	△ 44
受取入会金			
受取入会金	4,060,000	4,512,000	△ 452,000
受取会費			
通常会費	52,689,790	55,083,000	△ 2,393,210
終身会費	83,400	83,400	0
事業収益			
広告料収益	2,030,550	1,687,880	342,670
刊行物売上	70,000	138,100	△ 68,100
山研使用料収益	2,249,675	2,409,274	△ 159,599
その他事業収益	7,953,800	7,673,530	280,270
受取補助金等			
受取地方公共団体補助金等	840,201	807,000	33,201
受取民間助成金	13,849,000	5,419,000	8,430,000
受取補助金等振替額	342,000	0	342,000
受取寄付金			
受取寄付金	4,461,000	3,054,568	1,406,432
会員寄付金	8,004,098	13,245,119	△ 5,241,021
雑収益			
受取利息	6,444	8,212	△ 1,768
雑収益	7,795,294	5,401,126	2,394,168
経常収益計	104,467,429	99,554,235	4,913,194

科 目	当年度	前年度	増 減
(2) 経常費用			
事業費			
出版事業費	13,568,925	14,312,862	△ 743,937
図書管理事業費	5,836,589	5,584,435	252,154
調査研究事業費	602,878	1,051,795	△ 448,917
指導研究事業費	81,731	64,905	16,826
山岳環境保全事業費	199,198	978,196	△ 778,998
支部事業費	21,870,131	18,556,799	3,313,332
高尾の森づくり事業費	5,811,158	6,154,388	△ 343,230
ユースクラブ事業費	5,851,057	5,597,072	253,985
海外事業費	149,746	22,000	127,746
海外登山助成金	500,610	902,450	△ 401,840
山岳研究所事業費	5,087,900	4,181,180	906,720
山岳研究所減価償却費	3,850,394	3,813,854	36,540
ミニ水力発電事業費	0	36,750	△ 36,750
ミニ水力減価償却費	171,753	171,753	0
家族登山普及事業費	8,882,224	0	8,882,224
その他事業費	13,965,658	9,295,282	4,670,376
事業管理費	20,888,676	19,930,462	958,214
事業費計	107,318,628	90,654,183	16,664,445
管理費			
給料手当	2,997,532	2,677,838	319,694
臨時雇賃金	0	20,454	△ 20,454
退職給付費用	45,181	24,947	20,234
福利厚生費	189,186	155,573	33,613
旅費交通費	130,247	164,634	△ 34,387
通信運搬費	82,319	98,116	△ 15,797
会議費	28,551	18,264	10,287
消耗品費	28,122	20,516	7,606
修繕費	0	8,711	△ 8,711
印刷製本費	83,122	67,977	15,145
光熱水料費	33,039	32,075	964
電話料	19,503	18,636	867
保険料	7,881	7,860	21
租税公課	34,190	39,708	△ 5,518
負担金	1,200	2,400	△ 1,200

貸 借 対 照 表

平成26年3月31日現在

(単位: 円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	32,577,354	41,366,700	△ 8,789,346
未収会費	4,260,000	6,240,000	△ 1,980,000
未収金	3,561,000	0	3,561,000
貯蔵品	1,651,950	1,829,302	△ 177,352
仮払金	0	1,126,805	△ 1,126,805
流動資産合計	42,050,304	50,562,807	△ 8,512,503
2 固定資産			
(1) 基本財産			
貸付信託	200,000	300,000	△ 100,000
定期預金	7,800,000	7,700,000	100,000
基本財産合計	8,000,000	8,000,000	0
(2) 特定資産			
秩父宮記念基金	15,200,000	15,200,000	0
海外登山基金	42,500,000	42,500,000	0
遭難防止事業基金	10,000,000	10,000,000	0
長期計画準備金	37,767,854	37,767,854	0
退職給付引当資産	4,700,550	4,219,900	480,650
三宅島緑化特定資産	337,000	0	337,000
特定資産合計	110,505,404	109,687,754	817,650
(3) その他固定資産			
土地	90,546,119	90,546,119	0
建物	66,462,018	72,140,869	△ 5,678,851
建物附属設備	908,776	1,060,238	△ 151,462
什器備品	1,094,835	1	1,094,834
機械装置	1,340,638	1,512,391	△ 171,753
その他固定資産合計	160,352,386	165,259,618	△ 4,907,232
固定資産合計	278,857,790	282,947,372	△ 4,089,582
資産合計	320,908,094	333,510,179	△ 12,602,085
II 負債の部			
1 流動負債			
前受金	132,000	88,000	44,000
預り金	2,782,496	9,247,071	△ 6,464,575
流動負債合計	2,914,496	9,335,071	△ 6,420,575
2 固定負債			
退職給付引当金	4,700,550	4,219,900	480,650
固定負債合計	4,700,550	4,219,900	480,650
負債合計	7,615,046	13,554,971	△ 5,939,925
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
寄付金	33,537,000	33,200,000	337,000
指定正味財産合計	33,537,000	33,200,000	337,000
(うち基本財産への充当額)	(8,000,000)	(8,000,000)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(25,537,000)	(25,200,000)	(337,000)
2 一般正味財産			
	279,756,048	286,755,208	△ 6,999,160
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	(0)
(うち特定資産への充当額)	(80,267,854)	(80,267,854)	(0)
正味財産合計	313,293,048	319,955,208	△ 6,662,160
負債及び正味財産合計	320,908,094	333,510,179	△ 12,602,085

正味財産増減計算書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

(単位: 円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			

第3号議案 定款施行細則改定

新入会員は、いつ入会しても一年分の会費を納入しなければならないため、毎年4月に入会者が集中する問題が発生している。これを解消するため、定款施行細則を改定して、入会者の年会費を入会月ごとに割引く制度を導入することを提案する。また、平成26年5月以降の入会者から適用するため附則2を追加する。

変 更 案	現 行
(年会費の納付) 第3条 会員は、定款第7条に規定する年会費を、原則として毎年4月に納付しなければならない。	(年会費の納付) 第3条 会員は、定款第7条に規定する年会費を、原則として毎年4月に本会から送付される請求書に基づき、納付しなければならない。
2 本会に毎年5月以降に入会する会員には、初年度年会費の以下の額を減ずる。ただし、百円未満の金額がある場合には切り捨て百円単位とする。 5月入会12分の1 6月入会12分の2 7月入会12分の3 8月入会12分の4 9月入会12分の5 10月入会12分の6 11月入会12分の7 12月入会12分の8 1月入会12分の9 2月入会12分の10 3月入会12分の11	
3 本会に入会する会員は、理事会によって入会が承認された月からの初年度年会費及び入会金を、すみやかに納付しなければならない。	
附則 1 この細則は本会定款附則1に定める定款施行の日から施行する。 2 第3条2項及び3項は、平成26年5月から適用する。	附則 1 この細則は本会定款附則1に定める定款施行の日から施行する。

報告事項

平成26年度事業計画及び収支予算

事業計画(要約)

1. 公益目的事業

本会は、公益目的事業として(1)登山振興事業、(2)山岳研究調査事業、(3)山岳環境保全事業の実施を目的としている。事業ごとの主なポイントは下記のとおりである。

(1) 登山振興事業

秩父宮記念山岳賞表彰事業、海外登山隊への助成事業、機関誌「山岳」(第百九年)ほかの図書の刊行は従来どおりであるが、特に3年目となる若年会員の入会促進対策として展開しているYOUTH CLUB事業(登山講習会の開催、冬山天気予報の配信及び日・中・韓学生交流登山の実施等)に力を入れ、予算措置をしたところである。幸いにして会員の老齢化がYOUTH CLUBの活動によって緩和の傾向となっている状況が伺える。

また、「山の日」制定プロジェクトについても他の山岳団体と協力して平成25年度の実績を踏まえ新たな広報体制をとることとする。

(2) 山岳研究調査事業

山岳研究の基地としての「上高地山岳研究所」の積極的活用に加え、東京の事務所内に開設している「山岳図書館」について、その運営を担って来た図書管理委員会が山岳図書の研究を担当する「図書委員会」に統合され、山岳図書館のより効率的な運営の下、会員外の方々を含む利用者の拡大

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
支払手数料	127,755	87,220	40,535
建物減価償却費	68,613	68,613	0
什器備品減価償却費	2,425	0	2,425
事務所管理費	120,312	112,616	7,696
その他管理費	78,276	55,715	22,561
雑費	70,507	93,633	△ 23,126
管理費計	4,147,961	3,775,506	372,455
経常費用計	111,466,589	94,429,689	17,036,900
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 6,999,160	5,124,546	△ 12,123,706
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 6,999,160	5,124,546	△ 12,123,706

科 目	当年度	前年度	増 減
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 6,999,160	5,124,546	△ 12,123,706
一般正味財産期首残高	286,755,208	281,630,662	5,124,546
一般正味財産期末残高	279,756,048	286,755,208	△ 6,999,160
Ⅱ 指定正味財産増減の部			
受取民間助成金	679,000	0	679,000
基本財産受取利息	4,760	0	4,760
特定資産受取利息	6,299	0	6,299
一般正味財産への振替額	△ 353,059	0	△ 353,059
当期指定正味財産増減額	337,000	0	337,000
指定正味財産期首残高	33,200,000	33,200,000	0
指定正味財産期末残高	33,537,000	33,200,000	337,000
Ⅲ 正味財産期末残高	313,293,048	319,955,208	△ 6,662,160

(写し)

監 査 報 告 書

平成 26 年 5 月 14 日

公益社団法人 日本山岳会

会長 森 武 昭 殿

監事 浜 崎 一 成 ㊞

監事 吉 永 英 明 ㊞

私共は、公益社団法人日本山岳会の平成 25 年度(平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日まで)の監査を行いました。
その結果を次のとおり報告します。

1. 会計に関する監査

会計に関する監査のため、期中の取引に関する帳簿、証憑書類を閲覧し、期末資産の残高について実査を行いました。
監査の結果、添付の平成 25 年度の財務諸表(貸借対照表及び正味財産増減計算書)及びその附属明細書並びに財産目録は、いずれも法令及び定款に従い公益社団法人日本山岳会の財産及び損益の状況を、すべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

2. 業務に関する監査

会計以外の業務の監査のため、理事会に出席し、必要に応じて理事等に面談して質問することなどを行いました。
監査の結果、事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い公益社団法人日本山岳会の状況を正しく示しているものと認めます。
また、理事の職務の遂行に関し、法令若しくは定款に違反する重大な事実とは認められません。

以 上

なっている。この増加の主な原因は、こども夢基金よりの助成金9,000千円と会員寄付金の増加額7,202千円である。

3. 経常費用

(1) 事業費

機関誌「山岳」、会員向けの会報「山」などの出版事業費に13,750千円、支部事業費に23,473千円、上高地山岳研究所と図書室の維持費を含む山岳調査研究事業費として、9,424千円を計上したほか、若年会員増強のためユースクラブ強化の予算3,000千円を計上、さらに特別予算として、創立110周年事業の準備費用として3,000千円を加え、事業管理費19,336千円と減価償却費を含む事業費を総額105,988千円とした。

この結果、事業費は昨年に比べ、約15,673千円の増加となった。その主因は、家族登山普及事業費として、こども夢基金よりの助成金と同額の費用9,000千円を計上したこと、支部における活動活性化による事業費用の増加があげられる。

(2) 事業管理費及び管理費

事業管理費として19,336千円（前年度18,830千円）、法人全体に係る管理費として、5,445千円（前年度5,370千円）を見込んでいる。

事業管理費を含む管理関係費は全体として総額24,781千円（前年度24,198千円）となっているが、その内訳は、給料手当として9,595千円（事業管理費中の給与手当を含む、他に事業費中に4,848千円がある）、福利厚生費1,212千円、旅費交通費3,455千円、支払手数料1,917千円等である。その他の残額は、通信費、印刷費用、その他の本部事務所の管理費用であり、管理費の抑制に努めている。

4. 資金調達及び設備投資の見込み

平成26年度においては、上高地山岳研究所の水道工事負担金として6,750千円の設備投資と補修費用800千円を見込んでいる。借入金の計画はない。

を通じて山岳図書研究の推進をする。

(3) 山岳環境保全事業

東京多摩における「高尾の森づくり事業」、東海地区の「猿投の森づくり事業」をはじめとする全国11支部で実施されている森づくり事業を推進し、より全国的な規模での展開を目指していく。

また、全国自然保護集会等のシンポジウムの開催を通じて広く山岳環境の保全の必要性を訴え、登山愛好者としてのフィールドとしての山岳地域における環境の維持・保全を期す。

2. 共益事業

会員を対象とした会員のための事業としては、概ね下記のごとき事業を実施する。

- (1) 年次晩餐会の開催(12月)
- (2) 会報「山」の発行(№827～№838)
- (3) 上高地山岳研究所の利用
- (4) 山岳傷害保険の斡旋
- (5) 会員向け登山指導
- (6) 本会ロゴ入り登山用具等の頒布

3. 収益事業

本会が選択した「日本300名山」の最新情報を盛り込んだ「日本山岳会版」の新版ガイドブック(全3巻)の刊行を目指し、平成25年度に全国31支部による分担取材、執筆に着手しており、平成26年5月頃の刊行を予定する。

4. 法人管理

(1) 組織

平成25年度7月には、全国32番目の支部としての「群馬支部」が設立され、全国の支部化推進の観点から、支部活性化プロジェクトチームによる支部運営等の応援体制を確立する。その一環として従来総会の前に短時間、開いていた支部長会議を廃止し、新たに9月に全国支部会議を設定し、情報交換を密にする中で組織運営の充実を図る。また、委員会についても、「公益法人運営委員会」の充実を図り、今般の法人改革関連法が求める法人としてのコンプライアンスの徹底とガバナンスの確立の一環として引き続き各種規程類の整備及び支部会計の適正化等を図り、公益法人として、確実な運営を期す。

平成27年には本会設立110周年を迎えるため、「110周年記念事業実行委員会」を中心に、今後の本会発展に寄与できる各種事業計画の策定を進める。

(2) 会員動向

平成26年2月末日現在会員数5,116名、平均年齢はYOUTH CLUBの活発な活動による入会者増等により60歳代後半で安定して推移して大きな変化は無いが、少子高齢化が著しい我が国の実情から、今後における会員の減少傾向、高齢化が避けられないものと認識し、今まで以上の会員増対策を講ずべく、あらゆる活動を通じて入会勧誘に務め、資料等の充実に留意する。

<予算>

平成26年度予算

1. 平成26年度の予算編成方針

本会は、この10数年、会員数と会費収入が減少するなか、事業規模を以前と同程度に維持しているために、会費収入よりも事業経費が多いという逼迫した財政状況となっている。平成26年度においては、支部の活性化の効果により会費収入の増加と、本会への寄付及び助成金の増加が見込まれるので、経常収支の均衡（プライマリーバランス）を保つ予算編成を行った。

ただし、平成27年度に予定される創立110周年事業の準備費用として3百万円を計上したが、この金額は特別会計の扱いとして、最終損益において、3百万円の赤字として計上される結果となっている。

2. 経常収益

会費収入57,060千円、入会金収入4,100千円のほか、事業収益を12,810千円、受取寄付金・助成金等として20,728千円を見込んでいる。さらに、共益事業である年次晩餐会収入6,600千円を含む総額を108,427千円とした。

この結果、収入は概ね平成25年度より19,633千円の増加と

東 西 南 北

徳本峠越えとウエストン祭

尾野益大

年を重ね、経験を重ねることに山への接し方や考え方が変わっている。文字や映像でしか知らず、それで満足していたウエストン祭に無性に参加したくなった。四国支部が小島烏水祭を主管することになったからだ。それも約120年前、ウエストンがたどった徳本峠を越えるのが相応しいように感じられた。四国支部から(私を含め)4人が参加した。森武昭会長、佐藤守常務理事、大槻利行理事、山研委員の五十幡夫妻、東海支部11人、千葉支部1人、茨城支部1人と同行させていただいた。島々で式典、体操を済ませて出発。マイカーで島々到着後、仮眠2時間余の寝不足もなんの、清々しい空気が皮膚を刺激し、沢音と、姿を見せぬ鳥

のさえずりが目を覚ましてくれるようだった。

信濃支部の計らいで修繕された登山道は全般に歩きよかった。体が汗ばんできたころ、北九州支部、地元小学生のパーティーと会い、それぞれ挨拶を交わした。自分たち以外にも、遠回りのこの道をわざわざ選んだ人がいる風景に嬉しくなった。

ずっと昔から、この道は崩れるたびに修繕を繰り返され、付け替えられたりしたのである。上高地まで車が入るようになった今でも、この古道が残ったのはなぜだろうか。岳人からも忘れられつつある道だが、忘れてはいけない道のようない気がした。将来「古道100選」のようなものができれば、筆頭に挙げるべきだと思う。

たびたび脇に咲いた花の名前をいう声が後方から聞こえてくるが、聞き慣れない名前もあって口を挟

会員の皆様のご意見、エッセイ、俳句、短歌、詩などを掲載するページです。どしどしご投稿ください。(紙面に限りがありますので、1点につき1000字程度をお願いします)

第30回全国支部懇談会のご案内

平成26年度全国支部懇談会は埼玉支部主催で開催します。締め切りを延長してご案内いたしますので、多数のご参加をお待ちしております。

申込 支部一括の場合は支部ごとに申し込みください。個人での申し込みはハガキかメールで。申込用紙は埼玉支部HPよりダウンロードできます。

日程

・18日…講演会と交流会

・19日…記念山行(Aコース、

会場

園ホテル(秩父市)

両神山、Bコース武甲山、C

費用

16000円

了しました。

定員

200名

1か月延長して7月31日まで

締切

16000円

了しました。

費用

200名

1か月延長して7月31日まで

申込

申込・問合せ 公益社団法人日本山岳会埼玉支部 全国支部懇談会 事務担当 松本敏夫

申込

申込・入金後に詳細ご案内をいたします。

TEL 090-15338-0118

TEL 090-15338-0118

TEL 090-15338-0118

TEL 090-15338-0118

TEL 090-15338-0118

TEL 090-15338-0118

TEL 090-15338-0118

TEL 090-15338-0118

TEL 090-15338-0118

TEL 090-15338-0118

TEL 090-15338-0118

TEL 090-15338-0118

TEL 090-15338-0118

TEL 090-15338-0118

めなかった。四国なら珍しくないヤマシヤクヤクの白花に歓声が上がったのには驚いた。地方によっては滅多に見られない希少種になっているのかもしれない。深林は益々濃くなり、幾つもの支流をまたぎ、南沢の幅が狭まって対岸がよく見えるようになった。橋を渡り、今は営業していない岩魚留小屋の横で昼食をとった。腹が減った実感はなかったが、パンにバナナ、コーヒ、チョココレト、口に運べば何でもするりと胃に落ちるから不思議だった。陰を

つくつくしてくれていたカツラの大木にメジャーを当てると目通りは8m余りあった。四国・愛媛の石鎚山麓には28mの「初瀬のカツラ」があったから、座った初めからそのカツラに興味を持ち目通りを推測していた。カツラは水際に多いが、太くなるのは決して樹齢が長いからではなく、成長した分だけ水量に恵まれたのだと思う。

道の傾斜が増し始めると、本谷に向いていた足先が、峠沿いの北向きに変わった。雪渓が残る沢で一服し、長く伸びた行列を一つにまとめて再出発。さらにすぐ上の「力水」で喉を潤し、ジグザグに駆け上

がる小道を進んだ。頭上から招く徳本峠に向かって一心に歩いた。

案外早く、峠に着いた。しかし島々から7時間半がたっていた。穂高の連嶺から届いた風が疲れをさっと飛ばしてくれた。最高の天気は必ず最高の展望を約束してくれるものだ。明神、前穂、奥穂、西穂。紛れもなく日本アルプスの入り口だった。ウエストンも涙したに違いない。100回以上、ここに立ったという横有恒第4代会長はいつもどんな感慨にふけたのだろうか。

四国支部の集合写真はもちろん被写体を幾つも変えてカメラのシャッターを切った。名残り惜しかったが、リーダーに従って前へ進まなければならなかった。

いよいよ待ち構えるのは上高地。小島烏水が「神河内」であるべきだと主張し、その後「上河内」説も出た岳人の聖地だ。烏水は上高地の森が伐採され薪に変わることにいち早く異を唱え守った人物だった。雪渓を通って近道をし、酸素が濃くなることを実感しながら随分明るいうちに下りきった。

山研では、一時行方不明だった烏水のレリーフを見つけてくれた



徳本峠での記念撮影

管理人の内野夫妻、そして山研メンバーの歓迎を受け、鍋を囲み、酒を酌み交わして互いに交流を図った。一日の疲れはやがて薄らぎ、ぐっすり眠ることができた。

翌日のウエストン祭は昨日にも増して空の青が鮮やかで、穂高連峰に対面して始まった。献花、献歌、黙祷、詩の朗読があり、68年の歴史をたつぷり感じられ、簡素でも実のある式典に思えた。特に小学生の振り付けの「グリーン、グリーン」はこちらも心が温まった。銅板になったウエストンも微笑んだに違いない。講演をしたのはホー・花谷泰広さん。六甲で山を覚え、中学生で徳本を越え、信州大で鍛えに鍛えてヒマラヤに向かうストーリーは充実した内容で聞く者を飽きさせることがなかった。ウエストン祭には四国の小島烏水祭が学ぶべき点が多々あった。

午餐会のカレーライスは美味しかった。烏水祭も午餐会にならない、今春第2回目から地元名物・讃岐うどんを振る舞っている。しかし「午餐会がなぜ、カレーライスなのか」を聞きそびれてしまった。次の機会では、その訳をまず尋ねてみたい。

たすねうた — マナスル讃歌 —

高村奉樹

マナスル頂上に、はじめて今西寿雄、ギャルツェンの二人が立ったのは1956年5月9日、横有恒隊長がひきいる第3次日本山岳会隊の果敢な挑戦の成果でした。その少し前のこと、京都東一条の大学山岳部室近くで下宿していた大学3年生の私は、たまたま大阪の自宅に帰った日の翌朝、ラジオから流れるうたに起こされました。ついでアナウンサーの声「今日のマナスル隊の位置と行動予定をお伝えします！」まだキャバラン中で、前年、足止めにあったサマ村を今回は無事に通過したところだった。さて私がたすねたいのは、そのテーマソングです。

おれはシエルパ
ヒマラヤの谷で育った
伊達おとこ

カンチ・マカル・マナスルが
早くおいでと呼んでいる

マナスル登山隊の動向が、刻々と全国に放送されたのは、戦後の混乱から立ち直る時期の日本にとつてはじめての8000m峰登頂を国をあげて応援する気持ちのあらわれだったのでしよう。なおうたのメロディは覚えていますが、歌詞の正確さには自信がありません。歌詞や楽譜は遺されているのでしょうか。

すこし背景を記します。

私が大学山岳部に入部した53年は、5月に英国のハント隊がエベレスト初登頂に成功。8月には先輩たちのアンナプルナ遠征隊を送り出しましたが、今西、藤平はIV峰頂上を目前にしながらジェット気流にテントを破られて敗退。それだけに今西寿雄さんの加わるマナスル隊への期待は大きかった。

20年ほど前、80歳をすぎられたばかりだが、すでに病篤い今西寿雄さんを、チョゴリザの旧友、平井一正兄と見舞いました。そのおり今西さんの枕頭で私はこのうたを

覚えていますかと聞きましたが「知らんな」。それも当然でしょう。登山隊はキャラバンか登攀の最中で、短波放送もあつたかどうか。

じつは、昭和のはじめに西堀栄三郎さんたちが作詞して三高山岳部の仲間で歌い継がれてきた「雪山讃歌」の歌詞版權の取得に、50年も前、すこし協力したことがあります。だがこの歌については版權などとは別に、あの高揚した時代のうたの由来を確認しておきたいのです。なお私は半世紀前、カラコラムのチヨゴリザ、サルトロ・カンリ登山に参加した老兵です。このうたにあるネパールの白い巨人たちには昨春秋、はじめて接して感動しました。最近のシエルパの悲しい遭難事故に、あらためて根深誠の著書『シエルパ』の副題でもある、その「栄光と死」を思うと彼らをただ「伊達おとこ」と呼ぶことに躊躇します。

それはさておいて、このうたはどなたの作詞、作曲によるのか、いま私の耳に残るあのうたの由来について、ご存知の方はぜひ教えてください。

2014年7月3日

活動報告

科学委員会

平成26年度の探索山行報告

科学委員会主催の探索山行には永い歴史がある。その中で一貫していることは、ただ山に登るだけではなく、講師の先生をお迎えして、登った山から何かしら科学的な知識を得てくることにある。

それは高山植物の観察であつたり、地質、氷河地形、植生などなど、自然科学領域多岐にわたる。時には、山岳信仰、塩の道など古道に関する社会科学的なテーマも少なくない。

本年は6月14日(土)～15日(日)に、日本山岳会員のみならず、フオラムに参加してくださった一般の方々も含めて39名のメンバーで浅間火山を観察する山行を行なった。火山の観察のみでなく、噴火に伴う火砕流によって山麓住民のこうむった被害などの歴史にも

日本山岳会の
各委員会、同好会の
活動報告です。

踏み込むものであつた。現在、科学委員会委員長を務める福岡孝昭氏は火山研究の専門家である。講師には困らない。

初日は車坂峠から黒斑山に登って浅間山を観察する。浅間火山群は10万年前に黒斑山の噴火形成で始まった。その後もその周辺で火山活動は連続し現在に至っている。有史時代に入っても火山活動は続き、大きな被害を出した。黒斑山は浅間山の外輪山の位置にあり、東側が厳しい崖になっている。梅雨のさなかではあつたが、幸いお天気に恵まれ、北アルプス、中央アルプス、南アルプス、八ヶ岳、御岳、富士山など名だたる山はすべて視界のうちにあつた。この日、車坂峠に登るチェリーパークライスは私的なカーレースを行なう団体によって占拠され、危うく車坂峠に到着しそこねるところだった。嚴重な抗議が必要であると感じた。

宿泊は北軽井沢から二度上峠を越えた高崎側、市営のはまゆう山荘である。公営の宿にしては立派な造りで食事もおいしい。24時間源泉かけ流しの温泉もある。登山開始が遅れ、到着も予定よりはるかに遅れた。風呂にも入らず夕食の後、福岡講師の浅間火山に関する講話を聴いてのち入浴という変則的なスケジュールになり、参加者には迷惑をおかけした。

2日目は、起床一番、末広指導員によるラジオ体操から始まる。朝食もボリュームたっぷりである。バスで天明の噴火時に大きな被害をこうむった鎌原村の観音寺へ行く。ついで、鬼押出しの火山博物館を見学、最後に小浅間山に登り浅間山をじっくりと見た。

天明の大噴火時、上州方面に流れ下った火砕流は吾妻川をせき止め、その後、決壊して上州一円を荒らした。時の將軍は第10代將軍家治公から第11代將軍家斉公であったが、里に流れ下り肥沃な畑地を埋め尽くした噴出物を全部もとの肥沃な表層の土と入れ替えたというのだからすごい。宝永の富士山大噴火(1703年)で流れ出た御殿場周辺の噴出物について

幕府は何もできなかったというかなにもしなかったという。時の將軍は第5代將軍綱吉公であったが、將軍の違いというより、老中たち、実際の為政者によって天災の後始末は違うものだと感じさせられた。

(箕岡三穂)

三水会

「日本で海から一番遠い山」に登った

「日本で海から一番遠い山」をどこ存じだろうか。6月16日、三水会月例山行で登ってきた。山深いところにあると思ったが、それは意外なところにあった。

当初は、ツツジが素晴らしい浅間の湯ノ丸山に登る予定だった。前日、水ノ塔山・箆ノ登山に登り、山麓の宿で1泊した。参加19人。夕食を取りながら懇談していると、地元・佐久在住の会員が「日本で海から一番遠い山」が近くにあると話した。みんなびつくり、ぜひ行こうということになった。

山は榊山(さかきやま)といった。貸切バスを利用していたので機動的である。翌日、佐久平を南下した。小海線龍岡駅で左折、雨川沿いに県道

93号を田口峠に向かった。ダムの上流に橋があり、渡ると登山口になっていた。林道を1・3 km歩くと、5本丸大橋があり、あとは小さな沢を1 kmほど上り詰める。山道はよく整備され、案内板も整っていた。明るかった。ナラやカエデの新緑がまばゆい。渡渉を繰り返した。

頂上近くの小さな広場に、大きな標識があり、「日本で海岸線から一番遠い地点」と表示してあった。標高1200 m。太平洋側(田子の浦)から114・853 km、日本海側(直江津)から114・854 kmなどあった。地番は佐久市田口字榊山209-1だそうだ。一帯を榊山というらしい。三角点は、さらに40分ほど登ったところにあった。

信じたがたかった。後日、自宅で日本地図を広げた。コンパスで半径115 kmの距離を取り、佐久を中心に円を描いた。海は円の外にあった。中心点を移動させると、こんどはどこに動かしても海は円の中に入ってきた。納得した。

標識によると1996年に国土地理院の関さんが計算したという。会員のひとりが「茨城支部の関義

治会員だ」と言った。嬉しくなったが、それにしても18年も前のことだ。佐久市が宣伝に力を入れており、一般に知られてきた。観光協会曰く「認定証」をくれる。行ってみませんか。ただし、一人では登らないように。熊が出るそうだ。

(高橋重之)



支部

だより



全国各地の支部から、
それぞれの活動状況を、
北から南へとレポート
します。

越後支部

平成26年度越後支部総会
と親睦登山

5月24日(土)に越後支部総会が、胎内市の「胎内アウレツ館」を会場にして開催された。会場は新潟県4地域持ち回りで下越地区となるため、今回は五十嵐力支部役員のご尽力により会場設定された。この場所は、背後に飯豊連峰を見渡せる風光明媚な自然環境と胎内川を見下ろす景勝地であり、山の新緑が最盛期の時期でもあった。

支部総会出席者55名と委任状135名で総会議決数190人(支部会員87%)である。14時から橋本正巳支部長の挨拶で始まり、「新潟県は南北に長い地域ゆえに距離的な不便もあるが、毎年異なる場所での総会を開催できることは新たな経験や発見ができる。」と述べられた。また、「越後支部報第10号



晴天に恵まれた親睦登山出発前に

を総会参加者の皆さんに直接お渡ししたが、その冒頭文で支部活性化に向けた計画について述べてあり、具体的に行動を起こし始めている。

総会参加者は、過去最高の55名で委任状を含めると支部会員議決数87%と言う数字で、越後支部への関心を再認識していただき始めている結果と思われる。」と述べられた。引き続き本間宏之副支部長を議長として議案審議に入り、平成25年度の活動報告・会計報告、平成26年度の活動方針と予算説明が桐生恒治事務局長から報告され

拍手を持って承認された。

その他報告・連絡事項として、事務局より支部内規の一部追加改訂について、事前の役員会で承認されたとの報告。小山一夫事業委員長、本間一人広報委員長、七澤恭四郎自然保護委員長、五十嵐力図書委員長、目崎貞良県山協委員長、遠藤俊一・三百名山プロジェクトリーダーからの報告連絡がなされた。最後に桐生事務局長より、再来年(2016年)の越後支部創立70周年記念事業を推進するに当たり、プロジェクトの立ち上げが提案され山崎幸和顧問(前支部長)から統括リーダーとして采配していただくことに承認をいただいた。

総会終了後16時15分から記念講演に移り、「飯豊・櫛形山脈の見どころ」と題して地元の五十嵐支部役員が過去50年以上登り続けたお話を聞かせていただいた。五十嵐さんが撮影した8mmフィルムをDVDに編集し直した映像をもとに、ユーモラスなコメントを交えながら、空からの飯豊・櫛形山脈、のんびりとした飯豊連山縦走時風景、厳しい冬山登山、と貴重映像を見せていただいた。最後に、「櫛形山脈は日本一短い山脈」というキャ

ッチフレーズで紹介されており、日本一短い山脈を見た後に世界一長いヒマラヤ山脈を見てほしいということとで時間延長し、五十嵐氏のエベレスト街道見聞映像も紹介された。講演は1時間の予定が、「あつー」という間の1時間半であった。

その後席を移して懇親会となり、平田大六支部名誉会員の乾杯の音頭で開宴、越後岳人の交流サロンとして旧交を温め、地酒を飲みながらの山談義に花を咲かせることができた。

25日(日)は、晴天に恵まれて暑いくらいの登山日和となった。7時朝食、7時45分駐車場集合、登山リーダーの石山政雄支部会員から登山コースの説明や注意があり、記念撮影終了後、予定どおり8時に各自の車に便乗して登山口駐車場に向かった。登山参加者は41名で20台近い車で向かったため、駐車場が満杯になり、一部は道路沿いの空き地に駐車する状態であった。

8時45分、宮ノ入コースより登山を開始したが、40名近い行列となると結構な距離となる。自然保護委員会の声掛けで途中途中での

ゴミ拾いを行ない、新緑のまぶしさや小鳥の鳴き声を聞きながらゆつくりと進む。しかし次第に急登となり、昨夜の懇親会の酒の影響もあり足並みが乱れ始めたが、9時30分には展望楼(旧奥山荘城館遺跡)に到着した。10時白鳥山、10時30分鳥坂山、11時ユズリハノ峰と快適な縦走路の尾根歩きを楽しみ、石切コースを下り12時に全員駐車場に到着し、本間副支部長の挨拶をもって無事解散となった。

(桐生恒治)

東海支部

第2回夏山フェスティバル報告

「山の日」の祝日法案制定を受けて、山の恵みについて考えようをキャッチフレーズに、6月7日、8日の2日間にわたり「第2回夏山フェスティバル」が、名古屋市内のウインクあいちで開催されました。当フェスティバルは、「山の日」制定運動の一環として昨年に引き続き開催されたものです。今年は、「山の日」が正式に制定されたことあつて、大いに盛り上がりました。主催は、中部経済新聞社、実行委員長は、これも昨年同様東海支

部の尾上昇さんが務めています。こうした経緯もあつて、今回も東海支部では全面的に協力体制を敷きました。

前日には、東海支部員の主宰するアルプホルンクラブによるホルンの演奏や同じく青年部の2名が、90mの屋上からの懸垂下降のパフォーマンスで前景気をあおりました。メイン会場には、北ア、南ア、ハケ岳から24の山小屋が出展、さらには、山を身近に控える自治体や山用品のメーカーなどが50を超えるブースを連ねました。

別会場では、各種のセミナーやトークショーが開催されました。特に三浦雄一郎さんと岩崎元郎さんのトークショーは、整理券を配り入場制限しなくてはならないほどの人気でした。また、放談会「山を考える」と題した、コーディネー



盛況だった「山のよろず相談コーナー」

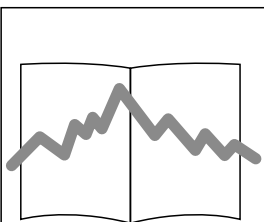
ター尾上昇さん、パネリスト谷垣禎一さん、岩崎元郎さん、赤沼健至さんによるパネルディスカッションや實川欣伸さんの「エベレスト報告」も満席の盛況でした。

東海支部でもブースを設け、「山のよろず相談コーナー」には、多くの来場者が訪れその対応に追われました。また、支部の活動広報にも力を入れましたが、お陰様で青年部や支部友会への入会希望

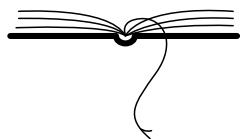
者が多数現われ、東海支部にとっても大変有意義なフェスティバルでした。

2日間に訪れた来場者数は、6650名を数え、昨年の5割増でした。アンケートの結果も上々でしたし、ブースへの出展者の皆様からも大好評で、早々と第3回のフェスティバル開催への期待が多く寄せられています。

(実行委員会事務局 毛利邦男)



図書紹介



ウォルター・ウェストン著

山本秀峰訳

『宣教師ウェストンの見た日本』



2014年4月
露蘭堂
A5判 234頁
定価3200円+税

ウォルター・ウェストンの著作
の翻訳、原題は「JAPAN」、19

26年にロンドンで刊行。「日本近代登山の父」とまでいわれ、日本山岳会設立の功労者たる著者ウェストンについては、ここで改めて紹介するまでもあるまいが、彼は1888年から通算3回にわたって日本に滞在。滞在中に登った日本の山を世界に紹介した『日本アルプス登山と探検』(1896年)と『極東の遊歩場』(1918年)はよく知られ、翻訳も出ている。本書

は、いわば「三十余年にわたる日本と日本人との交際」をめぐる集大成であり、生涯最後の著作となった。山本秀峰氏による初訳。

「訳者あとがき」にもあるように、1915年に最終的に日本を離れてからもウェストンの日本に対する関心は途絶えることなく、友人たちの協力もあつて日本に関する情報を引き続き得ていた。その範囲は、たんに登山関係にとどまらず、社会状況や政治動向にまで及ぶものであり、それをもとに新聞・雑誌などへの投稿も行なっていた。

ウェストンが初来日した次の年に大日本帝国憲法が公布され、日本は、欧米列強に伍して大国となることを志向し急激な近代化を推し進めるとともに、日清・日露の2つの戦争、そして第1次大戦参戦と帝国主義的進出を遂行していった。そうした日本の現場を、ウェストンはリアルタイムで目撃した証人ともいえる人物であり、本書は、外国人の目から見た「変貌する日本」の姿を知ることのできる貴重な資料となっている。

ウェストンは、伝統的な風習やものの考え方、町並み、生活習慣などに目を向ける。それらが、近

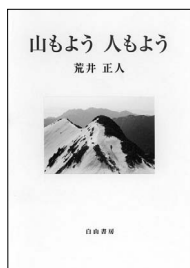
代化の過程で変質していくさまを描いているが、その過程で、西欧の影響のもとに失われざるを得なかったものを慈しんでもいる。彼は経験をとおして、それらを理解し、その価値に気づいていたのであつて、内側から日本を見つめようとする彼の視線には、偏見が感じられない。その上で、彼は、これからの日本の行く末に憂慮の念を示している。

第二章の「日本アルプスと聖域」および第七章の「スポーツと娯楽」では、山についてもふれている。日本アルプスの発見者の一人として、日本の山と自然の美しさを称賛してやまないが、なかでも山の民の人間性を高く評価していることは、ウェストンの実際の交友から得た信頼感に支えられたものであろう。また、当時のスポーツ事情を取り上げて、とりわけ若者たちの間で「輸入された」各種のスポーツが盛んになっていく様子が述べられている。伝統的な武術から、レクリエーションないしは娯楽としてのスポーツへと移行していく状況は興味深いが、登山については、それが「国民的スポーツ」となったと断言しているのは、ウェストンな

らではの見方というべきであろう。(飯田年穂)

『山もよう人もよう』

荒井正人著



2014年6月
白山書房
四六判上製 267頁
定価1600円＋税

「山ですか。いい趣味ですね。」山をやっていない人に山をやっていると話した時に最初に返ってくる言葉である。

「でも、私には山なんてとても。」二言目にはそういわれる。

普通の人は「山」いい趣味」と思いがら「だけど山はやらない」のである。

しかし「山」の読者はすでに知っていることだが、山は「いい趣味」などというものではなく、本書の著書がいうように一度捉えたらどんな人を深みに引きずり込んでいく麻薬のようなものである。嵩じていくと「仕事や家庭の現実を現実と思わなくなり」、「金欠病」や「家人のヒステリー」を誘発する。しまいに浮浪者のように

なつてはどこかで野垂れ死んでしまふこともある。お世辞にも「いい趣味」とはいえない。

とどのつまり「だけど山はやらない」のは正解なのである。

著者の荒井正人氏は団塊の世代に属するごくフツウのおじさんである。フツウに大学を出て、フツウにサラリーマンを勤め上げ、フツウにリタイアしていまは悠々自適の生活を送っている。フツウでないのは「山好き」という点だけ。本書の「病膏肓に入る」という章に詳しいが、著者自身「山」に取りつかれて、すでにかなり重篤な症状を呈している。さらに還暦を過ぎてから鋸岳、剣岳北方稜線など岩稜にも手を染め、どんな症状は重くなつていく様相だ。

そんな著者がその半生を山歩きを中心にして綴つたのが本書である。フツウのおじさんによるフツウの山歩きの回顧だから血沸き肉躍るスペクタクルがあるわけではなく、腹を抱えて笑うような面白いエピソードがあるわけでもない。ただ、本書はくつろぎながらもどこでも気楽に読めるのがよい。

浮世を忘れて自分の世界に遊ぶことができるというのが山が「い

「趣味」であるゆえんである。おそらく著者にも会社や家庭で遭遇し、巻き込まれていたどろどろしたものはあつたはずだが、素材を山に限ることによってそういったノイズはきれいに排除されている。それが読むストレスを感じさせない理由なのかもしれない。

心に響くものがあるわけではないが、本書を読むと「山はよい趣味だ」と思えてくるから不思議だ。

(近藤雅幸)

『地図のない場所で眠りたい』 高野秀行 角幡唯介・著

地図のない場所で
眠りたい
高野秀行
角幡唯介

2014年4月
講談社 294頁
四六判 定価 1500円+税

ともに早稲田大学探検部出身で、年齢では高野氏が10歳年上。時代や志向は異なるが、二人とも講談社ノンフィクション賞を受賞しているほか、多くの作品で数々の賞を受賞しているノンフィクションライターである。

著者とはなっているが、本書は二人の十数時間に及ぶ、酒を飲み

ながら語り合っているかのようなリラックスした対談をまとめたものである。順不同であるが、「早稲田大学探検部」「探検の現場」「探検ノンフィクションとは何か」「作家として生きること」といった章立ての6章から成る。

山登りをする人には角幡氏の『空白の5マイル』や『アグルーカの行方』などは身近に感じられるだろう。一方の高野氏はコンゴの奥地に生息するとされる未知動物「モケーレムベンベ」を現地捜索した『幻獣ムベンベを追え』、麻薬密造地帯として世界的に悪名の高かつたゴールデントライアングルの村に7ヶ月間滞在し、自らケシ栽培とアヘン採集を行なった記録『アヘン王国潜入記』などの作品があり、角幡氏が危険な無人地帯や極点への探索を主とするのに対し、人と接点が多い探検である。したがって高野氏は準備としては、自ら言語オタクと言っているように語学を重視するという。対して角幡氏は結構行き当たりばつたりのだというようなことがわかる。これも先輩後輩のリラックスした対談だからこそ面白おかしく表れるのだろう。

また、ノンフィクションライターとしての苦勞Ⅱテーマをどう探すか、売れなかった時代のこと、文章力そのものに対する苦悩などⅡは、なかなか外からは判らない面で、たいへん興味深い。そうした読者が勝手に造り上げる著者のイメージから窺い知れないことも多い。

二人を身近に感じ、ほかの著書を読んでみたくなる。そして、早稲田大学探検部の精神性と角幡氏は言うが、多くのライターを生んでおり、すごい部だなどと思う。

誰でも子どもころは探検や冒険好きだ。山歩きをする人なら未知への好奇心も旺盛であろう。そんな好きなことを学生時代に実践し、かつ文章にして評価され、職業としているのだから羨ましいと言っている。多少の苦悩はあつても。

(荒井正人)



図書受入報告(2014年5~6月)

編著者	書名	ページ/サイズ	発行元	刊行年	寄贈/購入別
大町山岳博物館(編)	山と人 北アルプスと人のかかわり :「北アルプスの自然と人」展示解説書	188p/30cm	大町山岳博物館	2014	発行者寄贈
谷口凱夫	アルプス交番からのメッセージ	301p/19cm	山と溪谷社	2014	出版社寄贈
西村博文(編著)	西村一良の生涯 :スキーひとすじ 日本プロスキーヤー第一号	112p/26cm	西村博文(私家版)	2013	発行者寄贈
東京大学山の会(編)	スキー山岳部の歴史 :東京大学運動会スキー山岳部	142p/21cm	東京大学山の会	2014	発行者寄贈
日本山岳会千葉支部(編)	房総半島分水嶺踏査報告書	74P/26cm	日本山岳会千葉支部	2014	発行者寄贈
熊谷鶴三・佐藤一夫(編)	2012年日本・パキスタン合同カラコルム登山隊報告書(福島支部創立65周年記念)	127p/30cm	日本山岳会福島支部	2014	発行者寄贈
小泉武栄・佐藤謙	ここが見どころ 日本の山 :地形・地質から植生を読む/列島自然めぐり	224p/19cm	文一総合出版	2014	出版社寄贈
斉藤清明	今西錦司伝 :「すみわけ」から自然学へ(人と文化の探究 No.10)	396p/22cm	ミネルヴァ書房	2014	著者寄贈
荒井正人	山もよう人もよう	267p/20cm	白山書房	2014	著者寄贈
Kielkowski, Jan	Annapurna Himal :Monograph - Guide - Chronicle	272p/21cm	Explo	2014	著者寄贈

Climbing&Medicine・63

山での心肺蘇生

齋藤 繁

日本山岳会の会員の中には、心肺蘇生の講習会を受講したことがある方も少なくないと思います。心肺蘇生の基本的事項については平地におけるものと山で行うもので本質的に異なることはありません。しかし、環境の特殊性により、処置を受ける者の蘇生の可能性が低下すること、処置を行う側への環境による影響が、平地と異なることなどに関しては特別な留意が必要です。標高による酸素分圧の低下が生理機能に影響を与えるのは、標高2000mから2500m以上と考えられるため、それ以下の標高における心肺蘇生は平地と同様と考えて差し支えありません。実際、航空機キャビン内の気圧は標高2000m相当を目安としており、航空機内での心肺蘇生の考え方も基本的に平地と同様です。

一方、酸素分圧の影響が明らかとなる高地での心肺蘇生は、発生の状況が様々で医学的な面から記述された症例報告もあまりありません。また症例報告の記述は、ほとんどの場合、非常に断片的です。これは、事例発生現場から医療機関までの搬送の過程に、医学的評価と考察を行える救助者がいる可能性が低いという現実にある原因があると思われます。さらに、高所における実施手技の有効性や有害性を科学的に評価する研究はほとんど行われていず、数少な

い症例報告や小規模の臨床的研究、あるいは高所での心肺蘇生の経験を持つ少数の専門家の経験のみに基づいて論説がなされているのが実情です。

実際、人里離れた山中中等での心肺停止に対して長時間心肺蘇生を実施してもほとんどの場合不成功に終わります。ご高齢の方、疾患をお持ちの方が頻りに山に登られる本邦では、こうしたケースが今後増加することも予想されます。困難な環境において長時間心肺蘇生手技を継続することは救助者も危険に曝すことになることから、一定の時点で心肺蘇生手技を終了させることは合理的であり倫理的にも受容されます(1)。心肺蘇生中止の判断を平地におけるよりも短時間で行わなくてはならない状況がほとんどであると想定され、当初から心肺蘇生手技を開始しない判断もありえます。

例えば、富士山では15分を目安とする告示がされています。特に、登山者の年齢層が高い本邦においては、心肺蘇生を実施することになるたまたま通るかかった登山者も高齢である可能性が高く、心肺蘇生作業が救助者側の健康状態に悪影響を与える可能性は少なくないと考えられます。

文献1：Narahara H, Kimura M, Suto T, et al.

Effects of cardiopulmonary resuscitation at high altitudes on the physical condition of untrained and unacclimatized rescuers. Wilderness Environ Med. 2012; 23: 161-4.

なお、過去のコラムはつぎの手順でご覧になれます。ご活用ください。日本山岳会ホームページ→日本山岳会の活動案内→委員会→医療委員会 <http://jac.or.jp/info/iinkai/iinkai.html>

会務報告

平成26年度第3回(6月度)理事会

議事録

日時：平成26年6月11日(水)19時～

21時05分

場所：日本山岳会集会室

【出席者】森会長、節田・黒川・古

野各副会長、高原・吉川・佐

藤各常務理事、勝山・山田・

野口・大槻・落合・川瀬・山

賀・直江各理事、浜崎監事

【欠席者】吉永監事

【審議事項】

1・東海支部からの110周年海外登山隊申請について

110周年記念事業委員会より推薦のあった標記申請につき、別

添資料により詳細に検討し、110周年記念事業として実施するこ

と及び助成金20万円を交付することについて審議した。(賛成15、反

対なしで承認)

2・上高地山岳研究所水道工事に

係る契約締結と長期計画準備金取崩しについて

上高地山岳研究所の水道工事着手のため、地元水道事業組合と加入契約を締結し、工事着工のための工事業者との契約締結をし、それらの資金充当のために、長期計画準備金を取り崩すことについて、別添資料により、担当理事から詳細に説明があり審議した。工事請負契約書の不備部分(部分払いの時期の明確化、注文者の代表者の名前を記述する等)を「覚書」として締結することを条件とした。

(賛成15、反対なしで承認)

3・トレイルラン事業への名義後援について

標記の是非について、一般登山者の安全、環境保全の観点等から審議した結果、「トレイルラン自体を否定するものではないが、イベントとして実施される事業への本会の名義後援は行わない」もの

寄付金及び助成金などの受入報告

受入日	寄付者	金額(円)	寄付の目的、その他
H26・4・4	㈱伊藤ハム	50,000	高尾の森づくり活動支援金
H26・5・13	越後支部 永年会員	10,000	寄付口座へ受入
H26・5・30	電源開発㈱	100,000	高尾の森づくり活動支援金
H26・5・30	アサヒビール㈱	100,000	高尾の森づくり活動支援金
H26・5・30	㈱エリオニクス	100,000	高尾の森づくり活動支援金
H26・5・30	㈱メタウォーター	100,000	高尾の森づくり活動支援金
H26・6・5	信濃支部 会員	10,000	寄付口座へ受入
H26・6・10	広島支部 会員	30,000	寄付口座へ受入

とする。支部についても、この事情を支部合同会議で説明し理解を求める。(賛成15、反対なしで承認)
4・人会希望者について(高原)
 16人の人会希望者について審議された。(賛成15、反対なしで承認)

【協議事項】

1・理事会の運営について

公益法人法制度に即した理事会運営を実現するため、理事会の招集手続き、議事運営、議事録の作成、業務執行理事の業務執行状況報告のあり方等について協議を行い、引き続き検討することとした。

【報告事項】

- 1・本年5月以降の寄付金・助成金の受入れ8件について報告があった。また、今後は寄付者等を会報「山」に記載する(本会員の場合、氏名は記さない)旨の説明があった。(吉川)
- 2・本年11月に東海支部が実施する「全国ボランティア登山(障害者支援登山)情報交換会」の開催について報告があった。(森)
- 3・110周年記念事業として実施される海外登山等四部門の企画審査特別委員会メンバーが決定したことについて報告があった。(黒川)
- 4・第2回全国安全登山実技指導講習会の実施日程及び国立登山研修所の後援名義申請等について報告があった。(古野)
- 5・遭難対策委員会から、山行連絡及び事故連絡システムについて、検討状況の報告があった。(黒川、川瀬)
- 6・年度途中の入会者の年会費の割引制度導入に伴う、新入会員の種別・入会月別会費額について報告があった。(吉川)
- 7・これまで進めてきた会員管理システムを、より当会の実情に合ったシステムに見直していく旨の報告があった。(高原)
- 8・従来会員限定としてきた蔵書

リストをHP上で一般公開することとし、合わせて公開並びに蔵書転載規程を見直すことについて報告があった。(節田)

9・北大山岳部・山の会より「山岳」記事転載許可願があり承諾した。(節田)

10・「山」6月号の発行について報告があった。(節田)

【連絡事項】

1・「安全登山ハンドブック2014」の配布依頼 独立行政法人日本スポーツ振興センター)

2・「信州山の達人」の募集(長野県知事)

【今後の予定】

- 1・総会 6月21日(土) 14時～
- 2・支部合同会議 9月20日(土) 21日(日)
- 3・山岳4団体懇談会 7月16日(水) 19時～
- 4・第10回山の博覧会(山梨支部) 7月5日10時～

ルーム日誌 6月

2日 総務委員会 スキークラブ
 3日 緑爽会 図書委員会 スケッチクラブ

日本山岳会編 『新版日本三百名山 登山ガイド』 発刊のお知らせ

昨年春より日本山岳会各支部の皆様取材、執筆を行なっていた、『新版日本三百名山 登山ガイド』が7月下旬に山と溪谷社より上・中・下巻同時に発刊されます(詳細は8月号にて)。

上巻 北海道／東北／関東 216頁
 中巻 甲信越／北・中央アルプス 200頁
 下巻 南アルプス／東海・北陸／近畿／中国・四国／九州 224頁 《定価=各巻 2300円+税》

収益事業・会員サービスPT

4日	常務理事会 集会委員会 YOUTH CLUB
5日	110周年記念事業実行PT 山想倶楽部
6日	九五会
7日	学生部
9日	高尾の森づくりの会 スキークラブ
10日	総務委員会 山岳研究所運営委員会
11日	理事会 休山会
12日	フォトビデオクラブ 山岳地理クラブ 公益法人運営委員会
13日	スケッチクラブ
16日	総務委員会 資料映像委員会
17日	二火会 家族登山普及WG 00会 スキークラブ
18日	総務委員会 三水会 青年部 つくも会
19日	科学委員会 海外委員会 みちのり山の会 緑爽会
20日	総務委員会 山の自然学研究会 YOUTH CLUB フォトビデオクラブ
23日	デジタルメディア委員会 スキークラブ 海外委員会
24日	自然保護委員会 麗山会 山遊会
25日	

26日 01会 学生部 公益法人運営委員会

27日 支部活性化PT 緑爽会

30日 総務委員会 YOUTH CLUB 遭難対策委員会

6月来室者 518名

◆会員異動(6月分)

物故

錦織保清(1941) 14・6・3

富沢 磐(4329) 14・5・8

大野盛彦(8471) 14・6・1

乾 能尚(9921) 14・6・11

名越 實(10149) 14・6・6

藤本慶光(12660) 14・6・8

退会

佐野 孝 (5563) 東海

川上正義 (7852) 岐阜

小野 肇 (8881) 北海道

米村文比古(9995) 東京多摩

鹿内善三 (11790) 青森

今永浩寿 (12029)

柿本孝徳 (12231) 青森

小高民江 (13557)

小林秀雄 (13933)

長谷川文男(13952) 青森

伊藤正博 (14004) 北海道

越坂部則道(14357)

前田咲子 (14932) 東海

錦織伸聰 (14936) 広島

I N F O R M

インフォメーション

A T I N

◆第32回図書交換会の出品図書募集について 図書委員会

本年の図書交換会も年次晩餐会の会場で開催します。本棚に眠っている山岳書をお寄せください。会場で希望者に頒布します。

出品図書は8月末日までに、氏

名、会員番号を明記して「日本山岳会・図書委員会」宛にお送りください。頒布価格は図書委員会に任せていただきますが、頒布が成立した場合は、価格の80%を出品者にお返しします。なお、原則として出品点数は一人50点まで、また当会の刊

行物ならびにガイドブックと雑誌はお断わりします。判断が難しい場合は事前にお問い合わせください。ご協力をお願いします。

※問合せ 三好まき子

TEL 090-8019-8601

E 344nm@nbe.nifty.com

◆南アルプス聖岳・光岳縦走 集会委員会

南アルプス南部の聖岳から光岳へと縦走する。1日の歩程5〜7時間。

日程 9月19日(金)〜23日(火)

集合 19日 7時 JR平岡駅

解散 23日16時 JR平岡駅

費用 3万3000円(前泊・入下山費用含まず)

定員 12名

申込 8月15日までに、菊池武昭

FAX & TEL 03-3991-3611

E syukai@jac.or.jp

*申込み者に詳細案内を送ります。

◆第4回「日本ラオス友好の森植樹祭」のご案内

今年、新たな3年間のスタートの年です。日本山岳会の皆様のご参加をお待ちします。

前後で有志によるベトナム旅行オプションの計画が持ち上がっています。ご期待下さい。

記

1 期日…2014年9月20日(土)
日本発↓ビエンチャン着 19時セ
ンタワンリバーサイドホテル集合
ビエンチャン泊

9月21日(日) ビエンチャン(バ
スにて移動)↓バンビエン泊

9月22日(月) 植樹祭(日本人在
住者、村人、村の学生参加) ッ

9月23日(火) バンビエン↓ビエ
ンチャン(間伐地調査・同泊)

9月24日(水) ビエンチャン観光
一部は農林省など訪問 ッ

9月25日(木) 夕刻、ビエンチャ
ン空港発↓(9/26早朝日本着)

2 募集人数…日本から20名、ラ
オス在住日本人15名、現地ラオス
人約100名

3 参加費用概算…約11万円/
1人(往復航空券約10万円、滞在費
約1万円)

*航空券はHISなどで個人購入
を。購入方法教えます。

4 途中参加・途中離脱・個人旅
行と合わせて日程の便宜を図ります。

5 申込み先…笹野典子

☎ : sasano-hoshi@nifty.com
TEL : 090-4453-12670

6 ラオスプロジェクト事務局…
龍久仁人、小口治、笹野典子

小口電話…090-8455-1155
57

◆編集後記◆

●今月号は、6月21日に開催され
た平成26年度総会の報告を中心に
掲載します。そのため、月号楽し
みにしている方が多い連載に休ん
でもらったり、また次号以降に見
送った記事もあること、ご了承ください。
来月号以降に順次掲載いた
します。

●いよいよ夏山シーズンが始まり
ます。計画書の提出義務に関する
事項や長野県による登山ルートの
グレーディングなどの動きもあり
ます。いかなることが行政によっ
て定められても、実際には登る本
人の実力と判断次第。どうぞよい
シーズンを過ごしてください。

(柏澄子)

日本山岳会会報 山 830号

2014年(平成26年)7月20日発行
発行所 公益社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビューハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
発行者 日本山岳会会長 森 武昭
編集人 柏 澄子
Eメール:jac-kaiho@jac.or.jp
印刷 株式会社 双陽社